

令和2年 10月市長定例記者会見

日 時：令和2年10月12日（月） 午後1時30分～

場 所：射水市役所会議室305・306

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
NHK 富山放送局、富山テレビ放送、時事通信社、庄東タイムズ

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、財政課長、学校教育課長、総務課長、生活安全課長

○質疑応答の概要

Q 1. 押印の廃止についての考えを伺いたい。

A 1. 10月2日から、国・県の法令などに基づくものを除いて、市独自の規定に基づく押印が必要な手続き、特に市民からの申請などで押印をお願いするようなものの洗い出し作業を行っている。真に必要な場合を除き、原則押印を廃止する方向で取り組みたい。

Q 2. 予算編成方針について、一般会計予算の想定される規模について伺いたい。

A 2. 新型コロナウイルス感染症に係る動向が不透明なので、今の時点でこれくらいと打ち出すのは難しい。第2次射水市総合計画の後期実施計画に掲げている事業をすべて実施するということになると、約400億円になるのではないかと。ただこれはあくまで全部実施した場合なので、予算の編成については、全ての事業において有効性・効率性・優先性などをしっかり見極めて、厳格な優先順位をつけながら取り組んでいきたい。

Q 3. 政策的経費のシーリングについて、これまでとの比較で、10パーセントとはどれくらいの大きさなのか伺いたい。

A 3. 令和2年度は経常経費についてマイナス3パーセント、政策的経費についてマイナス5パーセント、令和元年度は政策的経費についてマイナス5パーセント、平成30年度は政策的経費についてマイナス5パーセントのシーリングを設定していた。このように政策的経費についてはここ数年シーリングを続けているという状況である。加えて、令和3年度の予算編成方針では、マイナス10パーセントというかなり高いシーリングを設定した。なかにはシーリングにそぐわないものもあるかもしれないが、このシーリングを達成すべく、あらゆる事業についてその有効性・効果をしっかりと検証したうえで、また場合によっては、いったん崩したうえで新たな事業を企画して予算要求をするなど、厳しい財源の確保が予想される予算編成の中でも、市民に対する必要なサービス、また新型コロナウイルス感染症対策も含め、安全安心を確保する取り組み・事業をしっかりと展開できるよう提案を受け付け、予算の査定に当たっていききたい。

Q 4. 今回の知事選に関して、市長自身が SNS をどのように活用しているか伺いたい。

A 4. 県内の首長、また全国青年市長会の会員との情報のやり取りについては、LINE などを活用しながら情報共有・交換を行っている。公式的・対外的には今後、自身の政治活動や行政についての情報発信における SNS の活用については、考えていかなければならないと思っている。LINE については、市の公式アカウント設置に向けて作業を進めているが、市長自身のものということについては、どのような情報発信のやり方が効果的なのか考えていきたい。選挙などにどう活かすのかということについては、今回の知事選はじめ全国のいろんな選挙でのインターネット・SNS の活用などを研究しながら、良いものについては取り組む必要があるのかということの後援会と協議したい。

Q 5. 知事選について、票が割れてしこりが残りかねないともみていると思うが、知事選が終わった後の影響についてどう感じているか。

A 5. 非常に激しい選挙戦になっているので、結果がどのようなかたちになるにしろ、しこりは影響として残っていくだろうと考えている。また、市政や県内の市町村と県との関係においても影響が出てくるのではないかと心配している。選挙の結果を経て、有権者から選ばれた知事としっかり連携を図っていくことが大事だと考えている。これまでも、県とは必要な政策について話し合いや提案、協議をしてきた。これまでのことも十分踏まえながら、選挙で選ばれた知事としっかり協議をし、連携を図っていきたい。

Q 6. 予算編成方針について、財源不足については、基金の取り崩しや各種団体への補助金見直しなどを考えているか。

A 6. まずは、歳入において少しでも財源の確保を図っていくという観点から、様々な有料広告やネーミングライツの掘り起こしなど、民間活力の活用などに取り組んでいきたい。特にこうした有料広告やネーミングライツなどについては、できれば各部局において1件以上新規のものを要求することを求めていくなど、新たな財源の確保にもしっかり取り組んでいきたい。また、依存財源については、国や県の支出金・支出歳について新たな制度が設けられていないかを注視しながら、それらを効果的に活用していきたい。新型コロナウイルス感染症の対策については、交付金・補助金が継続されるようならそれをしっかり活用していき、新たなものについても、積極的に投入を図っていきたい。歳出については、シーリングをかけながら、全ての事業において有効性・効率性・優先性を考慮したうえで厳格な優先順位をつけながら、必要な事業については予算を配分していくつもりだが、優先順位において低めに設定されたものについては、思い切った見直しも必要になると考えている。こうした歳入・歳出両面からの不断の見直しに取り組んだうえで、それでも財源不足を埋められないということになれば、基金の活用について、検討しなければならないと考えている。

Q 7. 予算編成方針について、一般会計予算の規模を約400億円と想定しているとのことだが、この大きな要因は、新斎場の稼働か。

A 7. 新斎場については、今年度末には完成して、令和3年4月からは具体的な運用になるので、整備費については令和3年度はあまり影響しないと考えている。クリーンピア射水の基幹的設備改良事業は継続していく事業であるし、学校施設の長寿命化事業も大きな事業費を見込んでいる。約400億円というのは、あくまでも第2次射水市総合計画の後期実施計画において、令和3年度に実施しようとして計画していたものをそのまま実施した場合の金額であって、厳しい財政状況を考え、余裕があるものについては令和3年度ではなく後年度の実施を検討するなど、様々な見直しをする必要があるととらえている。あくまでも実施計画に予定されていたものをそのままやった場合の金額なので、何が要因というわけではない。

Q 8. 予算編成について、「新しい日常」創出特別枠の規模はどのくらいになるか伺いたい。

A 8. あらかじめ規模や上限は設定していないので、目的を達成するために工夫をし、アイデアを出し、事業として構築し、要求してきたものをつかり見て、効果があると考えたものについては予算計上する。

Q 9. 財源不足を、どれくらいの金額になるかという見通しはあるのか伺いたい。

A 9. 新型コロナウイルス感染症の影響が現在進行形で進んでいるので、税収については、間違いなく下がるだろうが、どこまで下がるか予測することは難しい。現在国から示されている状況などから考えると、リーマンショック以上の落ち込みになるのではないかと考えている。ちなみに、リーマンショックの影響が考えられるのは平成21年・22年で、当初予算ベースで約15億円の税収減があった。令和2年度を上回るという話をしたが、令和2年度の予算編成方針では、記者会見時に基金繰り入れ前の金額で約14億5千万円の財源の不足ととらえていたので、おそらくこれを超えるような財源不足になるだろう。

Q 1 0 . 予算編成方針について、1 0 パーセントのマイナスというのは近年あったか伺いたい。

A 1 0 . ここまで大きなシーリングは近年なかったが、合併後の平成2 0 年・2 1 年に、合併効果をしっかり打ち出すため、マイナス1 0 パーセントシーリングを設定したことはあった。